

全国漁業信用基金協会新潟支所

1.新潟県の紹介

新潟県は、本州の日本海沿岸のほぼ中央部に位置し、信濃川や阿賀野川など数多くの河川が日本海にそそぐとともに沖合には佐渡と粟島を擁し、面積は全国第5位の12,584km²、人口は15位の225万人の県です。

このような新潟県についてまず思い浮かべるのは雪ではないでしょうか。県境の山沿いの魚沼地域、上越地方は全国有数の豪雪地帯で一晩に1mを越す雪が降ることも稀ではありません。この雪が米をはじめ、枝豆、なす、すいか、梨、柿、桃などの農産物を育み、その中でも新潟県は「えだまめ」、「越後姫(イチゴ)」、「ル・レクチェ(洋梨)」のブランド化を推進しています。また、豊富で良質な水が酒造りを支え、酒蔵数(免許場数)は99で全国1位、生産(製成)量は3位となっています。



魚沼地方の雪景色

またもう一つ、新潟ならではの朱鷺(トキ)について触れさせていただきます。

トキは、江戸時代まではほぼ全国的に生息していましたが、明治以降急速に減少し、平成15年に日本の野生のトキは絶滅しました。一方、佐渡トキ保護センターでは、平成11年に中国から寄贈されたペアによる人工繁殖に成功し、平成20年から佐渡でトキの自然界への放鳥が行われています。令和元年12月現在で424羽の生息が確認されており、佐渡に来ていただければかなりの確率で自然界のトキを見られるかもしれません。



朱鷺(トキ)

2.新潟県の水産業について

新潟県には、長い海岸線(約635km)とその沿岸に広がる大陸棚、佐渡、粟島沖合の天然礁、さらには信濃川、阿賀野川をはじめとする大小の河川など、豊かな漁場があります。また、北に向かって流れる対馬暖流とその下層に広がる日本海固有水(水深300m以深で水温が2℃以下で安定している)により、暖流系、寒流系の両方の魚介類が水揚げされるなど、四季折々の豊富な海の幸に恵

まれ、海面の生産量は約3万トンとなっています。

その中でも、11月から1月に佐渡両津湾の定置網に入る寒ブリは、脂が乗って絶品です。冬型の気圧配置が強まり「雪起こし」と呼ばれる雷が鳴り出すと寒ブリが定置網に入ります。佐渡ではこれを「ブリ起こし」と呼んでいます。

また、サケは、江戸時代後半、県北の村上藩士・青砥武平治が、三面川に分流「種川」(たねかわ)

を考案して、世界初のサケの自然ふ化増殖に成功しました。その伝統が今でも引き継がれ、さらに村上地方には100種を超える鮭料理があり、鮭を余すことなく利用する食文化も根付いています。

ちなみに、年取り魚としては西日本ではブリ、東日本ではサケが多く用いられるようですが、新潟県では西(富山寄り)と佐渡ではブリ、北(山形寄り)ではサケといわれています。

一方、内水面では、本県が発祥の地とされています錦鯉の養殖(約200年前、江戸時代の後期に

古志郡二十村郷(現在の小千谷、長岡、魚沼地域)で生まれる)が、中越地域を中心に盛んに行われています。生産者による独自の研究、改良により現在では100種類以上の品種が作出され、アジアや欧米など世界40以上の国や地域に輸出され、近年は県内生産額の約7割が輸出向けとなっています。(ただ、今年新型コロナウイルス感染症の影響で、海外からのバイヤーの来県がほとんどなく、輸出も大きく落ち込んでいるのが実状です。)



佐渡寒ブリ



塩引き鮭(村上 鮭塩引き街道)

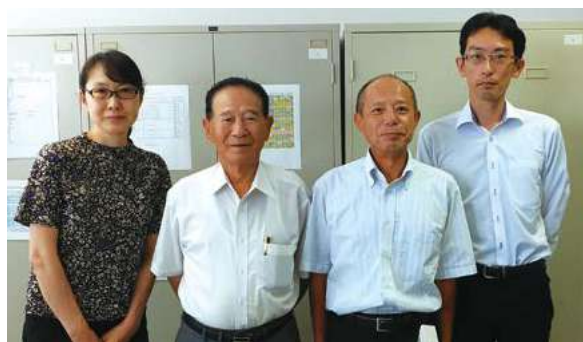


錦鯉

3. 新潟支所の概要

- 住所 新潟市中央区万代島2番1号 水産会館
- 電話番号 025-245-0814
- 代表者 担当理事兼運営委員長 小田政市
- 会員数 84名
- 出資総額 505,650千円
- 保証残高 286件 1,779,301千円
- 役職員数 4名

(令和2年3月31日現在)



新潟支所の役職員の皆さん

4. 今後の事業方針

令和2年度前半は、新型コロナウイルス感染症の影響で経済が低迷、それにともなう魚価の低下等で漁業者の経営状況の悪化が見られました。このような状況を改善するため、国は漁業者に対して、運転資金等の融資についての利子や保証料の助成を制度化しています。

新型コロナウイルス感染症がまだ完全に収束

しない中、新潟支所においても、新型コロナウイルス感染症への対応を緊急対策と位置づけ、国の支援制度を適切活用できるよう金融機関と連携して対応していくこととします。

また、平成31年4月の合併の効果が発現できるよう本所、各支所と連携し、水産関係者に役立つ協会支所となるよう努めてまいります。